神奈川

海自厚木航空基地の歴史を研修
海老名市と綾瀬市の中学教諭が参加

神奈川地方協力本部厚木募集案内所は8月7日、海自第4航空群および第61航空隊の協力を得て、海老名市と綾瀬市の中学校教育研究会社会科部会の14人を対象に、厚木航空基地での研修を行いました。

この研修は、社会科の「地域教材」を開発するための実地調査として、中学校教育研究会が厚木募集案内所に依頼したものです。

研修に参加した教諭たちは、厚木航空基地に到着後、まず広報資料館を見学し、基地の歴史に触れ、海上自衛隊の任務について理解を深めました。続いて、第4航空群の広報担当者から、基地の誕生から現在に至るまでの歴史や、現在も残る施設についての説明を受けました。スクリーンに映し出された過去の基地周辺の映像を見た参加者たちからは「知らなかった」「うちの学校だ」といった驚きや共感の声が上がりました。

掩体壕を見学する参加者

説明の後、参加者たちは隊員食堂で昼食を体験しました。自衛隊独特の食事の準備に戸惑いながらも「おいしい」という感想が飛び交い、厚木航空基地についての会話が弾んで、和やかな雰囲気が広がりました。

午後の研修では、基地内に残る旧海軍時代の建物や掩体（えんたい）壕、地下壕などを見学しました。掩体壕に入った際には「涼しい」「広い」といった声が聞かれ、当時の状況を思い描く様子がうかがえました。

研修の最後には、C－130輸送機を見学し、全てのプログラムが終了した参加者からは「現代の航空機に『平和』を感じた」「他の近隣市の教諭にもこの経験を共有したい」といった感想が寄せられ、厚木航空基地や自衛隊に対する理解が深まる、充実した1日となりました。

岩手

サテライトブースを開設し広報活動
若者向け広報活動と特別イベントで大盛況

サテライトブース前での装備品展示

岩手地方協力本部は7月12日から8月4日までの24日間、盛岡市大通商店街で「サテライトブース」を開設しました。

このイベントは、令和2年度から毎年、学生の夏休み期間に合わせて開催されており、今年で5回目を迎えました。

イベントとして、陸・海・空自衛隊の展示品（南極の石や氷、パイロット体験ができるVRコーナー、宿営用天幕など）、制服の試着、無料プリントシール機コーナー、無料カプセルトイ、災害派遣紹介コーナー、予備自衛官・即応予備自衛官紹介コーナーを設置し、幅広い年齢層の来場者に自衛隊の魅力を伝えました。

また、自衛隊に興味を持つ学生などを対象に、広報官が制度説明や各種募集種目に関する説明会を行い、志願意欲を高めました。

来場者からは「南極の氷が見られて満足です」「パイロットVR体験がリアルで楽しかった」「制服を着て貴重な体験でした」などの感想が寄せられ、カプセルトイなどのグッズプレゼントも大好評でした。

さらに、期間中の特別イベントとして、盛岡市大通商店街の歩行者天国に合わせ、陸自第9師団および東北方面特科連隊の協力を得て、87式偵察警戒車や96式装輪装甲車などの装備品展示を3回行い、第9音楽隊によるアンサンブルコンサートも開催しました。

24日間で約4900人が来場し、過去最多の成果を収めることができました。

大阪

「関西翼の会」航空教室で自衛隊をPR
陸自ヘリの運用などを子供たちに紹介

講演後子供たちとの記念撮影

大阪地方協力本部は7月25日、関西空港近くのホテルで「関西翼の会」主催の「航空教室」に参加しました。

この航空教室には、航空機が好きな小学生から高校生まで約100人が参加しました。自衛隊からは、泰良地本奈良募集案内所長の勝野雯裕（あゆ）3等陸佐が講師として支援し、募集ブースも開設しました。

講演では、勝野3佐が「陸上自衛隊空のお仕事」と題して、陸上自衛隊のヘリコプターの運用や特性について、分かりやすく説明しました。勝野3佐は、パイロットを目指した経緯やパイロットとしての経験、教育期間中の苦労、仲間との助け合いについても触れました。さらに、多くの飛行任務で得た知識や、上空から見る美しい景色などの経験談も熱心に語り、参加者や保護者はその話に引き込まれていました。

質疑応答では、ヘリコプターの特徴的な操作の説明をして、子供たちからの純粋な質問に誠実に答えていました。

募集ブースでは、大阪地本公式マスコットキャラクター「まもるくん」も登場し、航空ヘルメットを着けた勝野3佐やまもるくんとの記念撮影などが行われ、全ての参加者が笑顔で会場を後にしました。

参加者からは「飛行機が好きで参加したけど、ヘリコプターもカッコいいと思いました」「私もパイロットになって空を飛んでみたいです」といった将来の夢を語るコメントが多く寄せられ、将来の募集に向けた手応えを感じることができました。

岩手

岩手県自衛隊合同企業説明会を開催
貴重な機会を生かし隊員と企業が意見交換

企業との面談に臨む参加者

岩手地方協力本部は7月24日、盛岡市内のホテルで、自衛隊援護協会仙台支部が主催する「令和6年度岩手県自衛隊合同企業説明会」を行いました。

この説明会は、岩手県内での再就職を希望する退職予定隊員に対し、職業選択を容易にし、円滑な再就職準備をサポートすることを目的としています。

当日は、陸・海・空各自衛隊の任期満了退職予定隊員28人、令和6年度から7年度に定年退職を迎える隊員20人、さらに説明会の見学を希望した隊員5人の合計53人と、その上司が参加しました。参加者は、企業56社のブースを回り、説明を受けました。

説明会は午前と午後の2部制で行われ、企業との面談は、参加隊員の希望に基づき6回、岩手地本が適性を考慮して指定した企業との面談を2回、合計8回行われました。

また、会場内には予備自衛官等の相談コーナーが設置され、初めて参加した企業や隊員に対して予備自衛官等制度の説明も行われ、制度の普及促進が図られました。

参加した隊員からは「希望する企業の説明が分かりやすかった」「さまざまな企業の担当者と直接話ができ、今後の参考になった」「福利厚生や資格支援制度についての情報が得られ、有意義だった」といった好評の声が寄せられました。

企業側からも「規律正しい態度に感銘を受けた」「再就職への意欲を感じた。来年度もぜひ参加したい」といった声が聞かれました。

山形

酒田港で海自艦艇による広報活動を実施
海上自衛官と地域住民との交流を深める

敬礼で出迎える1日艦長（中央）

山形地方協力本部は8月3日と4日の両日、酒田港北港地区吉凾ふ頭において、護衛艦「すずなみ」（第3護衛隊群第7護衛隊）および掃海艇「はつしま」（舞鶴地方隊第44掃海隊）の支援を受け、海上自衛隊艦艇による広報活動を行いました。

このイベントは、海上自衛隊基地がない山形県で艦艇見学や海上自衛官との交流を通じ、地域住民の理解を深め、募集基盤の拡充を図ることを目的としています。

両艦艇は公開に先立ち、8月2日に入港。酒田船溜（ふなだまり）地区自衛隊協力会が主催する入港歓迎式が行われ、式典参加者への特別公開も行われました。

翌3日からは、募集対象者への特別公開や一般公開が行われ、全日程を通じて約4550人が来場しました。来場者は乗組員の説明を受けながら、普段は見ることのできない艦内を見学し、海上自衛隊への理解を深めました。

岸壁に設置された広報ブースでは「すずなみ」の飛行長による航空学生向けの制度説明が行われ、同時に偵察用オートバイや1／2tトラック、中型トラックの展示、南極の氷に触れる体験、ミニ制服の試着体験など、多彩なコーナーが用意されました。子供から大人まで幅広い世代がブースを訪れ、自衛官になりきって車両に乗り込み記念撮影を楽しむ姿などが見られました。

さらに、酒田市内の高校生を「すずなみ」の1日艦長に任命し、第7護衛隊司令との意見交換や乗艦者の出迎えを体験してもらいました。

また、県内の調理系学校の学生を対象とした艦内調理設備の見学や体験喫食も併せて行われました。

京都

特務艇「はしだて」一般公開を開催
5年ぶりの寄港で自衛隊ブームも大盛況

「はしだて」と広報ブース

京都地方協力本部宮舞後地域事務所は7月27日と28日の両日、宮津港鶴翼第1埠頭（宮津市）で開催された特務艇「はしだて」の一般公開において、舞鶴地域事務所および海自舞鶴地方総監部広報推進室と協力し、広報ブースを出展しました。

特務艇「はしだて」の名前の由来は、同市の景勝地「天橋立（あまのはしだて）」にちなんだもので「はしだて」は、平成11年11月に横須賀基地で就役した、現在海上自衛隊で唯一の特務艇です。

主な任務は災害派遣、国内外の来賓接遇、広報活動であり、国民や諸外国との間を結ぶ「懸け橋」としての役割が艇名に込められています。

今回の宮津港への寄港は、今年6月に迎えた宮津市制施行70周年を記念したもので、訓練の合間を縫って実現しました。これは、5年ぶり2回目の寄港です。

2日間行われた一般公開では、停泊中の特務艇「はしだて」の隣にブースを設け、子供向けの制服試着や、カプセルトイで自衛隊グッズを入手できるイベントなどが行われ、両日で約1200人が訪れ、会場は大いに賑わいました。

「はしだて」を初めて見た来場者からは「まるで海の迎賓館のような豪華な造り」や「護衛艦とはまた違った雰囲気がある」といった感想が寄せられ、訪れた人々はその特異な存在感に感銘を受けていました。

熊本

自衛隊パイロットへの道を解説
現役パイロットとの交流で航空学生の魅力を紹介

サインを求め並ぶ参加者

熊本地方協力本部は8月10日、熊本地方合同庁舎で「自衛隊パイロットへの道説明会」を開催しました。

この説明会には、現役のブルーインパルスパイロットである松永大誠1等空尉（第4航空団第11飛行隊）が参加し、官舎からも来場者があるなど、多くの注目を集めました。

第1部では、松永1尉が自身の経験をもとに、ブルーインパルスの魅力を紹介（西部航空方面隊司令部）、海上自衛隊から諸隈宣亮1等海尉（熊本地方協力本部水俣地域事務所）が参加し、それぞれの操縦経験や海外勤務のエピソードを紹介しました。3人のパイロットが異なる視点で語る経験談に、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

さらに、個別相談会も行われ、3人のパイロットが志願者や保護者からの質問に対して丁寧に答え、パイロットの仕事や訓練に関する詳細な情報を提供しました。これにより、参加者はより具体的なイメージを持つことができました。

参加者からは「航空学生から第2部では、航空自衛隊谷富誠一郎2等空佐から谷富誠一郎2等空佐から「ブルーインパルスのパイロットが使用する「TACネーム」の由来や、機体の特徴など、興味深い話が展開されました。

また、インターネットなどでは知ることのできない「ブルーインパルスにまつわる雑学も披露され、参加者たちは大いに楽しみました。

第2部では、航空自衛隊から谷富誠一郎2等空佐（西部航空方面隊司令部）、海上自衛隊から諸隈宣亮1等海尉（熊本地方協力本部水俣地域事務所）が参加し、それぞれの操縦経験や海外勤務のエピソードを紹介しました。3人のパイロットが異なる視点で語る経験談に、参加者たちは熱心に耳を傾けていました。

さらに、個別相談会も行われ、3人のパイロットが志願者や保護者からの質問に対して丁寧に答え、パイロットの仕事や訓練に関する詳細な情報を提供しました。これにより、参加者はより具体的なイメージを持つことができました。

参加者からは「航空学生から合格に向けて頑張ります」「航空自衛隊だけでなく、海上自衛隊やブルーインパルスについても学べてよかった」「いつか自衛隊で一緒に働いてみたい」という感想が寄せられ、パイロットへの道に対する意欲が高まるイベントとなりました。

神奈川

陸自高等工科学校生との座談会を実施
受験希望者と保護者にリアルな生活を語る

活気に包まれた座談会

神奈川地方協力本部厚木募集案内所は8月1日、厚木航空基地で、陸上自衛隊高等工科学校在校生2人の協力を得て、同校の受験を検討中の中学生とその保護者を対象に、帰郷広報として座談会を実施しました。

座談会は全般説明の後、高等工科学校在校生の自己紹介から始まりました。続いて、オープンスクールでは聞けない現在の生活や受験対策など、幅広いテーマについて質疑応答が行われました。

最初は参加者同士に緊張した雰囲気があり、一般的な生活面や授業内容に関する質問が多く寄せられました。

しかし、受験を考えている保護者が「大変じゃない？」と尋ねたところ、在校生が「大変なこともあるけれど、楽しい」と答えたことで、一気に場が和みました。これを機に「お金の管理はどうしているの？」「親との連絡はどれくらい取っているの？」といった、子供の将来を見据えた保護者目線の具体的な質問が次々と寄せられました。

また、在校生が「自宅への連絡は公衆電話を使っている」と話すと、保護者たちは驚きを隠せず、さらに座談会は盛り上がり、予定の時間があっという間に過ぎてしまいました。

担当広報官も久しぶりに会った在校生と近況を語り合い、厚木募集案内所内は今年度一番の活気に包まれました。

最後に、高等工科学校の学生らしい教礼とあいさつを受けた担当広報官は、彼らの成長に感銘を受け、自身の任務の重要性と「やりがい」を改めて感じる1日となりました。

大阪

キッズタウンで自衛隊をPR
車両展示や制服試着で約千人が参加

人命救助セットを体験使用

大阪地方協力本部は7月27日、茨木市立養精中学校で行われた「ワーク！わくいばらきキッズタウン」に参加しました。

このイベントは、茨木青年会議所主催の「茨木フェスティバル」の一環で、地域の小中学生を対象にした職業紹介・体験型の地域イベントです。昨年度に初めて参加し、主催者や来場者から大変好評を得たため、今年も強く参加が要請されました。

大阪地本は、第36普通科連隊の支援を受けて高機動車や偵察用オートバイを展示し、人命救助セットの一部体験や1／2tトラックの展示、制服試着、災害派遣活動のパネル展示などを行いました。主催者のニーズに応えつつ「見て」「乗って」「触れる」ことで子供たちに夏休みの思い出を提供できるよう工夫しました。

当日は、夏休み中ということもあり、地域の小中学生だけでなく家族連れも多く訪れました。

普段は間近で見ることのない自衛隊車両や器材、迷彩服姿の自衛官を見学し、ミニ制服を着て車両に乗っての記念撮影など、約千人の来場者が自衛隊の活動を楽しみました。

来場者からは「自衛隊の車やバイク、服がカッコいい！」「子供にぜひとの制服を着てほしい」「パイクに乗って写真も撮れて、夏休み最高！」といったうれしい声が多く寄せられ、参加した地本部員、第36普通科連隊の支援隊員全員が充実感を得ました。茨木市では、多くの入隊者や入校者を毎年輩出しています。

大阪地本としても、地域の小中学生を対象とした今回のような地域イベントは、重要な広報活動の一環と位置付けています。

栃木

自衛隊パネル展と広報イベントを開催
自衛隊カルタの展示や制服試着が好評

自衛隊あるあるカルタ

鳥獣人物戯画風イラスト

栃木地方協力本部真岡募集案内所は8月11日から18日の間、茂木町まちなか文化交流館「ふみの森もてぎ」にて、自衛隊活動パネル展を開催し、18日には広報イベントも行いました。

このイベントは、茂木町役場および栃木県自衛隊家族会茂木町地区会の協力を得て、地域の未来を担う自衛官の採用促進を目的に、対象者が少ない地域でも毎年行われております。特に、8月のお盆時期に合わせて帰省する地元出身者にも展示を見てもらえるよう、茂木町役場と連携して、文化交流館のWebサイトで早期に告知を行いました。

パネル展では、災害派遣など自衛隊の活動に関するパネルや、宇都宮文星女子高等学校の生徒たちが制作した「自衛隊カルタ」も展示されました。来場者は、陸・海・空自衛隊の装備品や災害派遣活動に関するパネルをじっくり鑑賞し、鳥獣人物戯画風のユーモアあふれるイラストで描かれた「自衛隊のあるあるエピソード・自衛隊あるあるカルタ」を楽しみながら、自衛官の日常生活に関心を示していました。

18日の広報イベントでは、1／2tトラックの展示、制服試着、輪投げコーナー、そして家族会主催の自衛隊グッズ販売会が行われ、多くの来場者で賑わいました。

お盆休暇で帰省した来場者からは「地元の交流施設で自衛隊車両や制服に触れ、自衛官との交流で、自衛隊をより身近に感じました」との感想が寄せられました。

群馬

防医大説明会で同郷の先輩が熱意を伝える
受験の不安や入校後の不安を緩和

防医大の説明会

群馬地方協力本部前橋募集案内所は、8月10日と18日に前橋市中央公民館で防衛医科大学校の説明会を開催しました。10日は看護学科、18日は医学科の説明が行われ、計15人の参加者が集まりました。

説明会には、群馬県出身の現役学生が駆けつけ、同郷の後輩獲得に尽力してくれました。

イベントでは、学校や各学科についての概要説明、現役学生との懇談、質疑応答が行われました。

懇談では、現役学生が受験の苦労や対策、入校から現在に至るまでの日常生活について、貴重な体験談を共有しました。

最初は緊張していた参加者も、募集案内所所長の雑談を交えた進行により、和やかな雰囲気で説明会が進みました。

参加者からは「防衛医科大学校について知れて良かった。並木癸にも行ってみたい」「大学生活が想像していたよりも楽しそうで難しそうだけど、頑張りたい」といった感想が寄せられました。

防衛医科大学校では、入校後に全国から集まった仲間と数年間を共に過ごし、卒業後は全国各地の自衛隊病院や部隊で勤務する医官や看護官として、学校で培ったつながりが大きな強みになります。

今回の説明会では「同郷」のつながりの重要性も感じられました。受験の重圧と戦う受験生にとって、受験から入校、生活に慣れるまでの不安を和らげるために、将来の同郷の先輩と知り合えたことは大変心強いことでしょう。

今回の参加者が無事に試験に合格し、来年にはリクルーターとして群馬県出身者をサポートする立場で再びこの場に戻ってくれることを願っています。

ひとりで悩まずご相談下さい！

自衛隊家族会は
★決して会員をひとりにはしません！
★いつもそばにおります！
★解決に向けてみんなで汗をかきます！

まずは、近くの家族会会員へ。
そして、お気軽に「問い合わせ窓口」へ。

1　「問い合わせ窓口」への問い合わせ先・要領

自衛隊家族会事務局（担当）　髙橋 隆志(たかはし たかし)
◇電 話 :03−5227−2468　（平日 09:00〜16:00）
◇メール :jkazokuka@jkazokukai.or.jp　（常時、ただし返信は平日）

「総括相談員」　鍛治 雅和(かじ まさかず)
◇番 号 :080−4630−8987　（平日 09:00〜16:00）

○ 問い合わせ者は、まず「氏名（匿名可）」「所属家族会（部隊等）」など述べた後に、必要な「問い合わせ」を実施して下さい。不在時には「相談員」から電話しますので、事前に「非通知設定」の解除をお願いします。
○ ご不明な点は、高橋までご連絡下さい。

2　問い合わせ　「相談員」

役 職・氏 名	担 当 内 容
家族会運営委員(陸自OB) 手塚 信一(てづか しんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に陸上自衛隊)
家族会理事(海自OB) 鍛治 雅和	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に海上自衛隊)
家族会理事(空自OB) 荒木 淳一(あらき じゅんいち)	◇家族(隊員)に関する問い合わせ (主に航空自衛隊)
家族会副会長(陸自OB) 宮下 寿広(みやした としひろ)	◇家族会全般に関する問い合わせ
家族会事務局員　髙橋 隆志	◇家族会の管理に関する問い合わせ

相談無料！　個人情報・秘密厳守！　問題解決実績多数！